

# 嬉 望

# 第 15 号

兵庫教育大学 学校経営コース大学院生編集部

 学校経営コースでは、全国から集まった現職教員・教育行政職員が学んでいます。

## ●1 年生が学部 3 年生授業に参加

兵庫教育大学には、1 年次あたり 170 名ほどの学部学生が教員を目指して学んでいます。3 年生になると選択必修の授業に学校経営の基本を学ぶ「学校経営論」があり、今年度から、学校経営コースの 1 年次院生が参加・支援しています。

10 月 14 日には、第 2 回の授業があり、「良い学校とは？」の演習がありました。学部生は、小学校・中学校・高等学校（普通科）に分かれて、KJ 法を使ってまとめ、発表しました。私たち大学院生は、演習を観察したり、ヒントを与えたりしましたが、児童・生徒の立ち位置で、「良い学校とは」を考える学部生の意見に学ぶところの多かった授業でした。



## ●文部科学省初等中等教育局の山中伸一局長と懇談しました。



10 月 18 日に、本学にお越しになられた文部科学省の山中伸一初等中等教育局長と、学校経営コースの 1 年生 4 人（平原・久本・才田・大久保）が懇談しました。

懇談の内容は、授業でも扱っている中教審特別部会の議論に関わる

ものでした。山中局長から、教員免許制度や採用・研修のあり方から、教職大学院での成果にいたるまで、多くの質問が投げかけられ、P1 学生が、日頃考えているところを率直にお伝えしました。懇談は、加治佐学長や新谷事務局長も同席し、約 1 時間行われました。写真は、懇談の風景と懇談後の記念撮影です。

## ●文部科学省高等教育局の今井裕一室長が来学されました

10 月 21 日に、文部科学省高等教育局大学振興課の今井裕一教員養成企画室長が、学部授業「学校経営論」を参観に来られました。

この授業は、一つ目の記事でも紹介したように、学校経営コースの 1 年生が授業支援で参加しているもので、当日は「小学校の使命」の演習を視察されました。学部生がグループでディスカッションし発表する様子を見られ、各グループに対しては、私たちと一緒にアドバイスをされました。

18 日の初等中等局長との懇談や、今回の授業参観等、文部科学省の幹部職員と接する機会が多いことも、学校経営コースの特徴です。



## ●フィールドワーク（兵庫県立伊丹高等学校）

10月26日、学校経営コースの1年・2年の大学院生8人が、兵庫県立伊丹高等学校を訪問し、校内研修に参加しました。これは、伊丹高校の求めに応じて、浅野教授が「学校活性化のための組織と人の処方箋」と題した研修に随行したものです。

教頭先生に、校内の案内をしていただいた後、会議室で研修を行いました。組織活性化のためには、①学校ビジョンの浸透や、②教職員の同僚性を確保するためのコミュニケーションの活性化（循環器系）、そして、③学校文化を形成するため、校長をはじめとする幹部教員の立ち振る舞いのあり方等の情報提供がなされました。写真は、研修冒頭で挨拶をされる秋田校長と、校長室での記念撮影です。

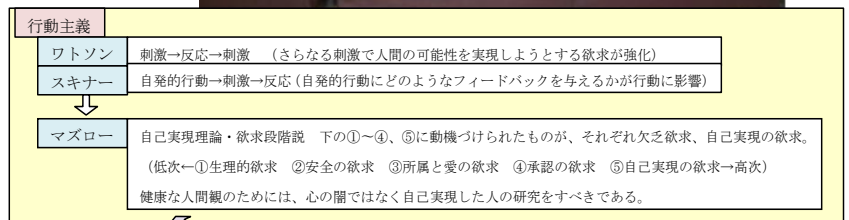


## ●シリーズ 兵庫教育大学教職大学院の授業 ⑭

### ～人間的成長を促す教育の理論と実践A～（選択共通基礎科目）

今回の授業紹介は、1年次後期に開講されている「人間的成長を促す教育の理論と実践A」です。この科目では、教育によって育むもの、培うものが何かを考えます。人間観や能力観について心理学・歴史学・哲学的観点から理論を学び、考察、議論します。また、OECDのDeSeCoプログラムによって定義されたキー・コンピテンシー等に関する論文をいくつか読み、選択者全員で議論したりしました。派遣元が総合学科高校である筆者にとっては、総合学科のことや「総合的な学習の時間」などについてじっくり考える良い機会になりました。

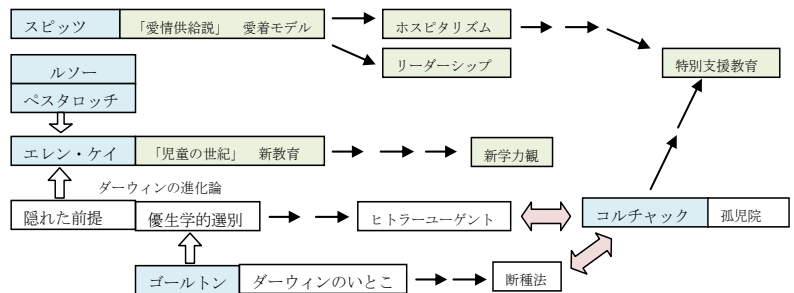
右上の図は、人間を見る視点に関して、下の2つの図と表は、新学力観などについて、ある院生の講義ノートからの抜粋です。



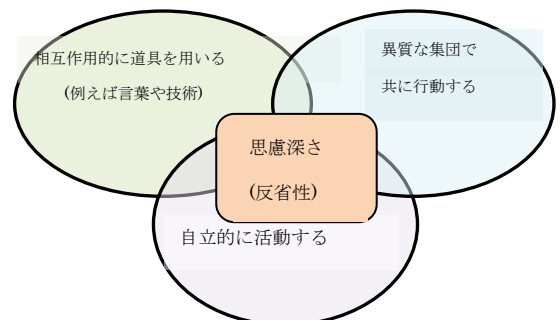
**フロイト** 人間は悪い部分を持ち、それを意識の奥底（無意識）へ。例「開会します」と言うべきところを「閉会します」と言ってしまった。深層に早く終わりたいという気持ちがあった。

**ロジャース** 不適応症状の要因や解決法を一番良く知っているのは本人である。カウンセリングでは、クライアントが自己を見る視点を理解しながら、カウンセラーは作作的な働きかけはせず、患者自身の否定的感情を吐露し、問題が何かを発見し、自己に対する洞察を深め、物事を捉える枠組みを変化させていく。

自己イメージがプラスの人が欠点を受け入れる or 自己イメージの人がマイナスの人が良い点を受け入れる  
→ エネルギーが必要である。 そのエネルギーのために共感してくれる人が必要である。  
(実践例) 仕事に失敗したA先生、「自分は無価値だ」と落ち込んでいる。悩みを聞いた人はどう対処する？



| 分類      | 名称                  | 機関・プログラム       | 出典  | 年                |
|---------|---------------------|----------------|---|------------------|
| 初等・中等教育 | 生きる力                | 文部科学省          | 中教審答申『21世紀を展望した我が国の教育のあり方について—子供に「生きる力」と「ゆとり」を』 | 1996             |
|         | リテラシー               | OECD-PISA      | 国立教育政策研究所編『生きる力のための知識と技能』                       | 2001 (2004 2007) |
|         | 人間力                 | 内閣府(経済財政諮問会議)  | 『人間力戦略研究会報告書』                                   | 2003             |
|         | キー・コンピテンシー          | OECD-DeSeCo    | ライチエン&サルガニク『キー・コンピテンシー』                         | 2006 (原著2003)    |
| 職業教育・   | 就職基礎能力              | 厚生労働省          | 『若年者就職基礎能力修得のための目安策定委員会報告』                      | 2004             |
|         | 社会人基礎力              | 経済産業省          | 『社会人基礎力に関する研究会「中間とりまとめ」報告書』                     | 2006             |
|         | 学士力                 | 文部科学省          | 中教審答申『学士課程教育の構築に向けて』                            | 2008             |
| 労働政策    | エンプロイアビリティ(雇用される能力) | 日本経営者団体連盟(日経連) | 『エンプロイアビリティの確立を目指して—「従業員自律・企業支援型」の人材育成を—』       | 1999             |



DeSeCo キー・コンピテンシーの3つの広域カテゴリーと核心としての思慮深さ 田中智志編(2008)『グローバルな学びへ』東信堂

わが国における(新しい能力)概念

松下佳代編(2010)『(新しい能力)は教育を変えるか』ミネルバ書房